

私がなぜ現在の科目を選んだか

「臨床検査技術科学」

信州大学医学部保健学科検査技術科学専攻

平 千 明

医療系への進学を漠然と考えていた高校時代、インターネット検索で「臨床検査技師」がヒットし、分析する仕事に興味があり、病院以外にも就職の選択肢が多そうだったので、臨床検査分野を志望しました。大学卒業後の進路選択として、企業・胚培養士・科捜研が候補に挙がりつつも4年生直前の春休みまで迷走していました。大学院進学も念頭に進学先を探している時に、信州大学医学部附属病院臨床検査部遺伝子・染色体検査室の主任臨床検査技師であった松田和之先生（現本学本専攻教授）との出会いにより、臨床検査“沼”にどっぷりはまるきっかけを頂きました。松田先生は最先端の遺伝子解析を駆使して白血病診断や再発予測の検査法開発だけでなく、臨床現場での実用化も進めており、臨床検査技師が臨床と研究をつなぐ役割を担っていることに感銘を受け、松田先生に師事し

たことで私の研究人生がスタートしました。

大学院進学と同時に研究マインドが根付いた臨床検査部に入職し、臨床検査技師として遺伝子・染色体検査室で分子生物学的手法を学び、主に血液疾患や先天性疾患の領域で臨床に貢献できる喜びを感じながら新たな検査法開発にも取り組みました。その後、生理機能検査室へ異動し、ミクロから一転マクロの世界に飛び込むこととなりましたが、患者さんの全身状態を直接把握することができる点でやりがいを感じ、他のメディカルスタッフとの関りも深いことから、チーム医療を実感する機会にもなりました。

臨床検査技師が活躍できる分野は広く、現在は母校である本学で臨床検査技師教育に携わっています。AIの進出により臨床検査技師の将来に不安を持つ学生もいるとは思いますが、医師・看護師業務のタスク・シフト/シェアの推進により臨床検査技師の業務範囲が広がりました。臨床と研究、2つの側面から活躍できる臨床検査技師は今後益々真価を発揮できると確信しており、その魅力を学生に向けて発信していきたいです。

(信大大学院平26年卒)

私がなぜ現在の科目を選んだか

「心臓血管外科学」

信州大学医学部外科学教室心臓血管外科学分野

山 本 高 照

分からないことばかりで、心電図や心エコーに至っては苦手意識すら持っていた私の背中を押し、心臓血管外科医への一歩を踏み出させたのは、初期研修で回った時に感じた手術の圧倒的楽しさです。全身管理ができる医師になりたいとの思いを学生時代から漠然と抱いていた私ですが、心臓血管外科をローテートで回り、手術手技の難しさや、自分の管理次第では命にかかわる合併症が起きてしまうという緊張感、そして緊急手術の多さから、到底自分には心臓血管外科医は務まらないと思っていました。しかし「やりたいことを選ぶのが一番大事」と熱心に勧誘をして頂く中で、自分でも心臓血管外科を選択しても良いのだという思いがだんだん強くなり、そして最後には、先輩のよう

に手術が上手になれなくても、患者管理がどんなに難しくても、重症患者さんに添い続けることは自分にもできるんじゃないか、と心臓血管外科医を目指す決心をしました。不安しかありませんでしたが、公私ともに頼りになる先輩、優秀な同期、とすれば自分よりも心臓血管外科に精通しているのではと思える程なのに私を立て励ましてくれる後輩に恵まれ、部活のような楽しさの中で日々をがむしゃらに過ごしているうち、これからどんなに辛いことがあっても続けていける、続けていきたいと思うようになってきました。今でもまだ自信はありませんが、瀬戸教授の熱心なご指導をいただき、徐々に心臓血管外科医としてできることも増えてきました。一方で、命に直結する手技を行っているという責任の重さを実感する機会も多くなり、ますますやりがいを感じる日々です。瀬戸教授のもと、この恵まれたメンバーと共に信州大学心臓血管外科を発展させ、地域の患者さんのために尽くしていきたいと考えています。

(信大平20年卒)